

# 日本漢方協会通信-① 2022年 4月

## 身の回りの漢方薬

小根山隆祥学術顧問

第三日曜日の講座終了後、帰宅時に雨が降ってきて、大勢の人が携帯の傘を取り出して差し始めた。雨と漢方は関連がある。

雨が降りそうな天候の日は朝から頭痛に悩まされる人がいる。天候の悪化・気圧や湿度の変化によって起こる不調を「気象病」と考えている。

頭痛・めまい・耳鳴り・関節痛・リュウマチ・かゆみ・蕁麻疹・肩こり・吐き気、古傷の痛みの悪化などの訴えが多い。特に頭痛持ちの人が多く、頭痛になると雨が降ると予報する人もいる。

その頭痛には【五苓散】が良い。五苓散は体の中の水の停滞を改善する漢方薬である。

関節痛やリュウマチは関節に水がたまり、頭痛や蕁麻疹・耳鳴りは皮膚や頭の組織に水の滞りがあるなどすべて、体の中の水分の滞りに関係がある。五苓散は茯苓・猪苓・朮・沢瀉・桂皮の五生薬からなる。桂皮は気の巡りをよくする生薬。茯苓・猪苓はキノコ類で、湿っぽい所が好きだ。

朮はキク科の植物オケラの根茎。オケラは日が当たるが、やや湿りのある土の、林の縁に野生している。沢瀉は水生植物のオモダカの根茎。

五苓散を構成している生薬すべてが、湿気や水分の多い所に生育している植物である。

また、江戸時代の書物である稿本方輿輦には「又俗間二魚腥甘草二味ノ方湿薬ト云テヨク用ル也。」とあり、魚腥草（ギョセイソウ＝ドクダミ）と甘草二味を合わせて湿薬（主に梅毒）として使っている。梅毒は湿邪と熱邪が合併した湿熱によると考えられている。

魚腥草は葎草〔ジュウソウ〕とも呼ばれ、聖光園細野診療所ではこの二味を合わせた葎甘散（シュウカンサン）という家方にしており、更に温清飲（皮膚が乾燥し、熱感があり、かゆみの強い分泌物の少ない皮膚疾患に使われる。）と合方して、今日のアトピー性皮膚炎にも応用できるのではという臨床報告をしていた。

ドクダミは民間薬としてよく話題になる薬草で、庭や藪、道端などのやや湿っぽい所に生え、葉に特異なおいがあり、群落を作って繁茂する。

初夏に花のような四枚の白い十字が目立つ。よくご存じの植物だ。

ドクダミも湿気が多い環境で生育している。五苓散を構成している生薬も似たような環境で生育している。そのような環境の生薬が水分の停滞している体の状態を改善することは面白い。が何故だろう。身の周りに漢方・漢方薬の勉強すべきテーマは転がっている。

また、昔の書物を読んで、ヒントをもらい、新しい応用を考えるのもこれから漢方の勉強の方向ではないだろうか。このような目標をもって、一年を一緒に勉強しよう。

---

# 日本漢方協会通信-②

日本漢方協会講義を聴講して(2022年3月20日分)

会員 豊岡 寿美

3月20日、本年度最後の日本漢方協会・漢方総合講座を聴講いたしました。

良く晴れましたが風が強く、花粉症にはつらいお天気でした。

午前中の生薬解説は「黄連・黄芩」でした。薬性については瀉補・燥潤・降升・収散まで、さらに帰経もあわせて代表処方の構成生薬について詳しい説明があり、とても分かりやくそれぞれの処方が納得できました。

私は「黄連」につきましては、胃腸系に効果のある生薬というイメージを持っていましたが、神農本草経にも「目痛、明目」とあり、目に関するいくつかの処方に配合されているということが再確認できてとても勉強になりました。また以前、胃痛で服用した「半夏瀉心湯」が確かに心地よい苦味だったことを思い出しました。

午後からの漢方トピックスは耳鼻咽喉科の金子達先生でした。

まず、めまいや耳鳴りなど西洋薬ではなかなか改善しない症状に漢方薬が有効だというお話がありました。

先生のお話では、「めまい」は「水」と「気」が重要。「耳鳴り」では血圧や冷えなどもかかわっているとのことでした。その症状だけ見てはわからないことがあるということでしょうか。

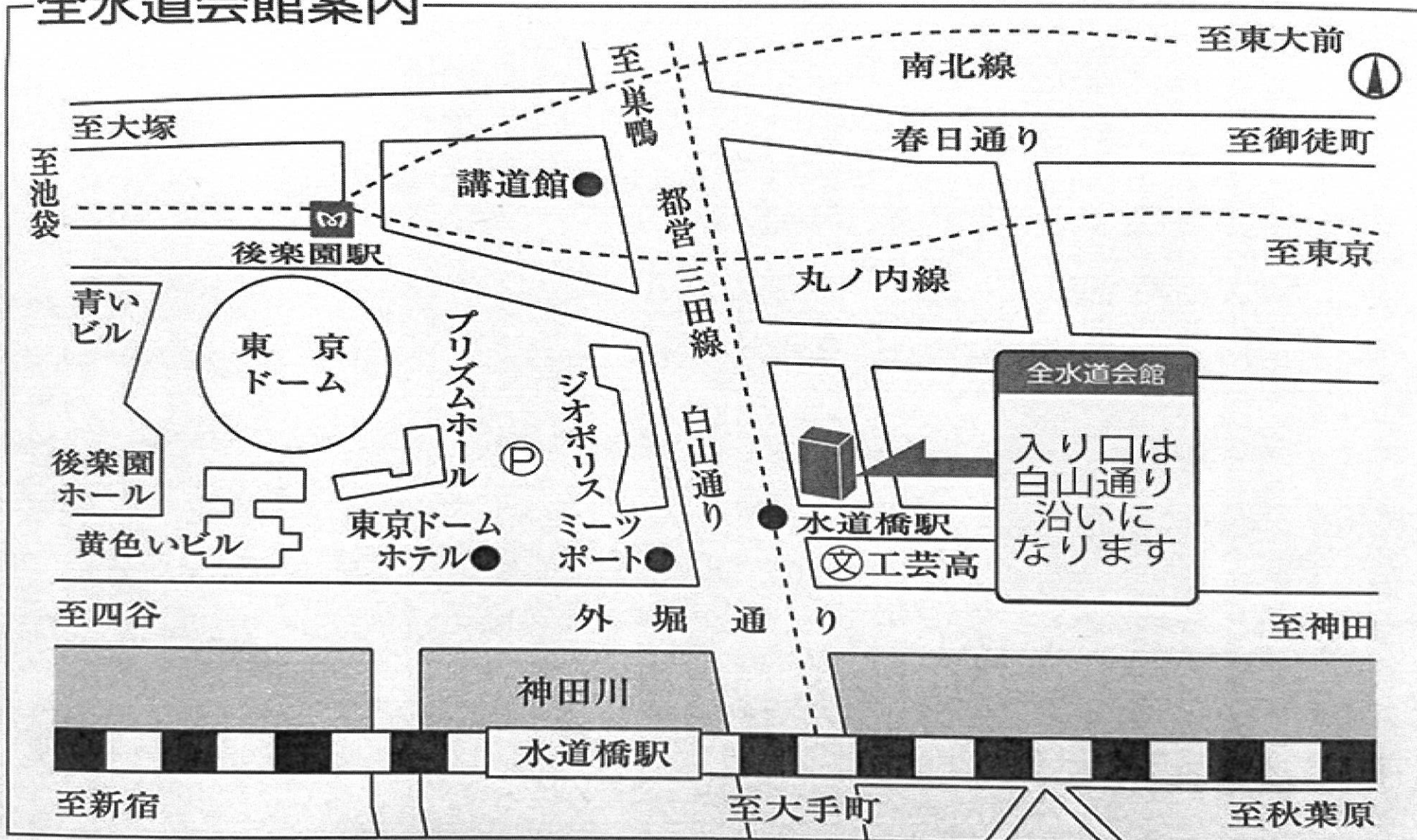
次に、花粉症やアレルギー性鼻炎には眠くならず即効性のある漢方薬はとても有効とのことでした。各症状別の漢方薬の選び方の表がとても参考になりました。

就寝前は抗ヒスタミン剤を服用して、日中は眠くならない漢方薬でしのぐという方法もあるというお話には、なるほどなあと思いました。

また、免疫系に亜鉛が関わっているというのは興味深いお話でした。

先生が目のかゆみにおすすめと話された「越婢加朮湯」をさっそく試してみようと思いつきながら帰途につきました。

# 全水道会館案内



JR水道橋駅 東口(お茶の水寄り)下車2分 都営地下鉄三田線水道橋駅 A1出口1分  
 ※一般財団法人 全水道会館 TEL 03-3816-4196 <http://www.mizujoho.com>

## 薬草園青空研修会のご案内

5月の青空研修会は、あへん法で禁止されている柵内の“ケシ”を間近で観察出来ます。未熟果に傷をつけて分泌する乳白色の汁液があへんで、主成分がモルヒネです。皆様のご参加を是非お待ちしております。

**日時** 2022年5月8日(第2日曜日) 午前9時30分受付開始  
(但し、まん延防止等重点措置などにより園が閉園の場合は延期になります)

**場所** 東京都薬用植物園 <東京都小平市中島21-1>  
【お願い】一般来園者が多い時期で駐車場は終日混雑することが予想されます。お越しの際にはお車はご遠慮いただき公共交通機関のご利用をお願い致します。

**内容** 9:55~12:05 1~4班は研修室で聴講 5~8班は園内観察  
13:00~15:10 5~8班は研修室で聴講 1~4班は園内観察  
【講義内容】「ケシ等の規制植物について」「なるほど・the オウレン」

**申込方法** 申込締切：4月20日(水)  
年間受講生は、開講後に出欠確認案内を配布致します。  
会員、一般の方は、必ず事前に事務局までお申込み下さい。  
ご参加可能な場合は、お振込み頂き入金確認後に参加証をお送り致します。  
(当日欠席されましても返金は出来ませんので、ご了承ください)

**参加費** 日本漢方協会会員：6,000円 一般：9,000円 学生：1,000円  
(学生証をご提示ください)

\*4月開講「2022年度漢方総合講座(第32回)」年間受講生は受講料に含まれています。

**振込先** 郵便局備え付けの青い振込用紙をご利用ください。  
加入者名：一般社団法人日本漢方協会  
口座番号：00150-3-603133

\*参加お申し込みの方には、後日詳しいご案内をお送り致します。

【お問合せ先】 一般社団法人日本漢方協会 事務局  
〒130-0026 東京都墨田区両国2-17-19  
PAZ 両国6階  
TEL/FAX：03-6659-9980  
E-MAIL：j.kampo@jeans.ocn.ne.jp

日漢協薬用植物観察分科会主催

第66回薬用植物観察会のご案内

3年振りの再開となりますが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。  
今回は県立大磯城山じょうやま公園を企画しました。大磯城山公園は旧三井財閥別荘跡地と旧吉田茂邸跡地を整備した神奈川県立都市公園です。国府橋こうのはしから小淘綾こゆるぎノ滝、不動池のルートは狭いながらも静かな緑に囲まれた自然散策路となっています。午後は自由行動で旧吉田茂邸の別荘建築や日本庭園と、大磯駅への帰路は明治政界の要人達の邸園が見学できます。皆様のご参加をお待ちしています。

○日時：2022年5月29日（第5日曜日） 雨天決行 荒天中止

○集合時間：午前10時00分

○集合場所：JR 東海道線大磯駅改札口

10：15発バス（1番のりば 馬場・大磯住宅経由 二宮北口行）

○会費：無料

※今回から無料とします。ただ障害保険は入っていませんのでご承知おきください。

○持ち物：弁当、筆記用具、カメラ、ルーペ、雨具等

○観察コースの概略：城山公園前バス亭→であいの広場→展望台→ひかりの広場→国府橋→小淘綾ノ滝→もみじの広場→不動池→大磯郷土資料館前芝生で昼食・解散

旧吉田茂邸地区（庭園内飲食禁止）は国道を隔てて南側に隣接しています。

※4班に分けて担当者4人の説明を受けながら観察します。

※定員20名とさせていただきます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のご協力お願いいたします。

○締切日：5月22日（第4日曜日）

○申込方法：下記の申込書に必要事項を記入して、破線部で切り取ってからFAXしてください。

FAX先：昌平堂薬局 笠原民子 FAX0463（24）5440

○連絡先：会員 熊井啓子 TEL042（626）6256

携帯 090（5827）8501（当日午前7時以降）

----- 申 込 書 -----

参加者氏名

（会員外の方もOK） \_\_\_\_\_

年齢 \_\_\_\_\_ 才 男 ・ 女 領収書（ 要 ・ 不要 ）

住所 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

携帯 \_\_\_\_\_

緊急連絡先電話 \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

写真を送付しますのでパソコンのメールアドレスをお持ちの方は記入お願いいたします。  
（判読しやすいようにはっきりお書きください。）